

終わらない歌

昔、胃腸薬パンシロンのTVコマーシャルに渥美清が出て「パンシロンでパンパンパン、パンシロンでパンパンパン」と歌って「この歌終わらないね。」と言っていたのを覚えている方は多いでしょう？実は、私にも終わらない歌があります。

これも昔の話ですが、「フィーリング」などを歌ったハイファイセットの女性ボーカル、山本潤子が歌った「翼をください」がその終わらない歌なのです。

1996年から2000年に亘って我が社が受注した大型プロジェクトの一つである天然ガス液化装置(LNG)の建設工事のため、私はカタールの北の街、ラスラファンに駐在していました。ラスラファンの現場近くに労働者を含めると3000人のキャンプを設営し、私をはじめ我が社の人間はスタッフ用のキャンプ80棟に住み、日本人スタッフの8家族は首都のドーハにアパートを借りて住んでいました。

当時カタールには300人の日本人が住んでおり、その内の約60人が我が社関係の人であり、私が現場の長だったため日本人会の副会長を仰せつかり、様々な行事に駆り出されました。

1998年の夏、日本大使館から日本人会及び日本婦人会に呼び出しがあり、代理大使から、9月に開催されるアンダー16のサッカーのアジア大会に協力を要請されました。日本サッカー協会からの手紙には、詳細な計画書が添付されており、約2週間にわたる食事の提供を依頼されていました。しかし、この要請を受けた大使館としては選手に食中毒事件などを起こさせないために協力は出来ないのです、この申し入れを断る旨を告げられました。

夏休み期間中のため日本人会の会長は日本に帰国しており、副会長の私にどうするかを尋ねられたので、大使館の言い草に腹を立てた私は、「我が社は3000人からのキャンプを構えており、食事提供など全然問題ないから日本人会ではなくわが社だけで受け入れても良い。」と啖呵を切り、大使館を後にして近くのホテルのロビーで皆と話し合いました。婦人会の会長も我が社の社員の奥さんだったので、彼女も婦人会が応援して日本人選手とそのスタッフ約40名を受け入れると宣言し、ドーハ日本人会の名前で日本サッカー協会に受け入れを受諾し、協力する旨の返事を出しました。

私は現場の渉外スタッフ(アドミニストレーション、略してアドミ)に詳細な応援計画を作らせ、日本人会、婦人会を通して全面的に応援することにしました。

我が社から、現地の料理人5名を派遣し日本婦人会に協力して食事提供をお願いしました。アドミは町の商店と交渉して1枚1200円で選手と同じ日本国の国旗と全選手の名前を入れたブルーのTシャツを作らせ売り出しました。カタールの日本人が300人に対して追加注文を入れて500枚も売れて、わがアドミは鼻高々でした。

残る懸案事項は応援の仕方でした。アドミは「応援歌を歌いたいけど日本サッカー協会の応援歌を知っていますか？」と聞いてきましたが、勿論そんなものは知らないのです、私は

彼に「任せとけ、俺が皆を指導するからスタッフを 10 人集めて今夜から練習するぞ。」と言って、例の「翼をください」を一緒に歌い練習し、応援席での指導の仕方まで教えました。

9月10日に開会式があり、11日から日本チームが所属するBグループ、日本、韓国、バーレン、タイの4カ国による予選が始まりました。

試合は夜7時から始まりますが、カタールの9月はまだ夏の真っ盛りで、夜7時の気温は28度、湿度90%とうだるような暑さです。試合前の予想は、韓国戦は苦戦するかもしれないけどバーレンとタイには問題なく勝てるだろうと言うことで、2勝すれば予選通過できるので楽観していました。

9月11日、つめかけたブルーのTシャツを着た日本の応援団には入口で「翼をください」の歌詞配り、応援席に着いたら直ぐに前もって練習していた我が社のスタッフ10名があちこちに散らばって、私の歌唱指導の応援をしてくれました。

韓国戦は善戦しましたが2-1で敗れましたが、応援歌はドーハの空に響き渡り選手たちからもお礼の言葉が相次ぎました。

1日置いた9月13日、バーレン戦では終始押し気味に試合を進め危なげなく2-0で勝利しました。その試合の途中

この大空に翼をひろげ、飛んでゆきたいよ

悲しみのない自由な空へ翼はためかせ

の部分になると、日本人応援団ばかりでなく、会場中からこれに合唱する声が聞かれ、予めこの分を3回繰り返したら止めることにしていたのに、会場からは延々とこの繰り返しが続いていました。試合後、会場を後にする青いTシャツの日本人応援団に向かって、観客のカタールや他のアジアの観客が合唱で送り出してくれました。

次の日、現場の私のオフィスにドーハタイムズの記者がきて、「いまアンダー16のアジア大会で日本の歌が評判になっているが、どんな歌か教えて欲しい。」と会見を申し込まれました。そこで話したことが次に日に「Give me Wings という親しみやすい日本の歌がスタンドに満ち溢れている」と記載されていました。

9月15日は予選の最終戦、対タイ戦でした。前評判は圧倒的に日本有利でしたので安心して歌に集中してスタンド全体を味方にして、前半1-0でリードして後半に入りました。しかし後半に入ると日本選手の動きが鈍くなり終了5分前に追いつかれましたが、引き分けでも予選通過できるので、更に声を張り上げて応援しました。ところが3分間のインジュリータイムにふとした気の緩みからタイの選手に独走を許し、1点を失い、2-1で敗れてしまいました。日本の応援団席は声もなく落胆しているのに、スタンドだけはまだ応援歌が流れており、その落胆の大きさが更に大きくなったように感じました。

選手たちや日本サッカー協会のスタッフ、それに大会をサポートしてくれた日本人会、婦

人会の主だった方々をお招きして、我が社が社員の保養所として借り受けている海岸の別荘で慰労会を行いました。

若い選手たちは敗戦の痛手など微塵も見せずに、大いに食べ笑い、そしてお別れにもう一度あの応援歌を全員で熱唱して、次回の健闘を祈りました。

選手たちは、応援をしてくれた日本人会及び婦人会にボール、シューズ、T-シャツなど試合で使用したサッカーグッズをお土産に置いていきましたが、その中の一つ、選手のサイン入りのフラッグだけは私が頂き、今でも大切に保管しています。

山梨ではヴァンフォーレ甲府が来季も 1 部リーグに留まることが話題になっています。私の Jリーグの知識はそれほど大したものではありませんが、先月、日本の Jリーグはサンフレッチェ広島の優勝で幕を閉じたことくらいは知っています。その広島のポイントゲッターの佐藤寿人選手はドーハに来た選手団の中でも抜群の活躍をした選手の一人で、今、私が保管しているフラッグにも彼のサインが入っています。

Jリーグと「翼をください」の直接の繋がりはありませんが、テレビのニュースなどで Jリーグの場面などが出てくると、私は馬鹿になったようにこの終らない歌を歌っています。

今私の願い事が叶うならば翼が欲しい

この背中に鳥のような白い翼、私に下さい

この大空に翼をひろげ飛んで行きたいよ

悲しみのない自由な空へ翼はためかせ飛んで行きたいよ

この大空に翼をひろげ飛んで行きたいよ

悲しみのない自由な空へ翼はためかせ飛んで行きたいよ

行きたい

子供の時夢に見たこと、今も同じ夢に見ている

この背中に鳥のような白い翼、私に下さい

(前回の繰り返し)

完